

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 稲盛アカデミー／教授

氏 名: 山口 明伸

授業科目名	進取の精神海外研修 in ベトナム
研修先 (大学・国・都市名)	ベトナム(ハノイおよびハノイ周辺地域)
研修期間	令和 4年 8月 31日 ~ 令和 4年 9月 7日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>本研修では、約一週間のベトナム研修に加えて、事前学習、および帰国後の報告会を実施した。事前学習では、渡航先となるベトナムの地理・歴史、文化、経済、さらに日本との関わり等、基本的な情報を調査した。また、帰国後に実施した報告会では、ベトナム滞在中の経験を改めて整理し、学生の自己評価を含めて得られた成果を取り纏めた。現地の主な活動内容を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノイ旧市街地および文化施設見学 ・ハノイ周辺の農村および工芸村訪問と現地中学校での学生交流 ・ハノイ郊外での自然および文化遺産視察 ・ベトナム社会科学院および稲盛アカデミーベトナム事務所訪問 ・JICA事務局訪問およびボランティア現場見学 ・京セラベトナムおよびキューデンイノバテックベトナム関連会社訪問 	
<p>〔研修の成果〕</p> <p>①歴史と文化(訪問先:旧市街地、文化施設(伝統芸能の劇場等) 文化施設・自然遺産の見学や現地の学生との交流を通じて、日本とベトナムおよびアジアの歴史と文化に対する相互理解を深めた。</p> <p>②教育と行政(訪問先:現地中学校、ベトナム社会科学院等、JICA) 現地の教育現場を訪問し、日越の教育システム違いと類似点を学んだ。また日本への留学を目指す学生と交流し、彼らの高い向上心と意欲に刺激を受けた。また、JICA訪問では、ベトナムの経済発展における日本の支援状況とその役割を理解すると同時に実際のボランティア現場を見学した。</p> <p>③産業や環境(農村、工芸村、京セラ、キューデンイノバテックベトナム、WeatherPlus) ベトナムの農業、工芸等を見学・体験することで、村や集落の単位による伝統的運営方法を学び、その利点と課題について考えた。一方、最新設備の現地日本企業および関連企業を見学し、最先端のIT関連機器の仕組み、構成部品の製造方法や効率的な生産システム等を学んだ。さらに、現地特有の労使問題や、企業理念に基づく運営手法、環境保全や防災減災への取り組み等についても理解を深めた。</p> <p>＜学生の主な自己評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地を訪問することで、事前学習では分からない、文化や考え方の違いを実体験した。 ・コミュニケーション能力として、語学力だけでなく「伝えようとする気持ち」を持つことの重要性を実感した。 ・多様な文化の理解と、グローバルな視点を持つことの重要性を再認識した。 ・進取の精神の意味や今後の生き方を改めて考える機会となった。 	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、滞在日数や活動内容をある程度制限せざるを得ない状況となった。マスク着用の徹底や、食事時の会話は厳に慎む等、感染防止に十分に配慮しながらの少々息苦しい面はあったものの、いずれの参加学生も大変意欲的に活動し、各訪問先で活発な質疑応答や意見交換を行うことができた。結果的には、コロナ感染はもちろん食中毒などで体調を崩す学生もおらず、全員無事に研修を終えることができた。</p> <p>現地の方々との交流に加え、トビタテの海外派遣プログラムでハノイに長期滞在中の学生や、ハノイでボランティア活動を進めている青年海外協力隊の隊員、ベトナム文化の調査に訪問中の学生グループ等、様々なかたちで日本を飛び出して自分を磨いている若者達との交流や刺激を経験し、本研修の目的である「進取の精神」の涵養がなされたものと考えている。</p> <p>次回以降も、安全と健康に配慮しつつも、できる限り現地での実体験や異文化交流の比重を高めた濃い研修となるよう準備したい。</p>	